

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	Rise		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 20日	～	令和7年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 27名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 20日	～	令和7年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 5日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが過ごしやすい室内環境を築けている。	おもちゃや活動で使用するものは整理整頓を心がけ、室内がすっきりした印象となるように整えている。 視覚的な支援ツール等は個別に作成し、壁に掲示すること等は極力控えている。	毎日行っている清掃等は今後も継続し、清潔に使用できる室内環境を維持していく。 室内の危険な箇所に緩衝材を当てること等、安全性を高める。
2	幅広い活動内容を考案し、活動プログラムが固定化されていない。	2か月以上前から、活動内容を検討し始め、準備や計画に時間をかけている。あらかじめ丁寧にタイムスケジュール等を決めた上で、当日の子どもの様子等を踏まえて、柔軟に活動のねらいや活動内容を変更することも行っている。	通所している児童の年齢や障害特性に合わせて、どの子も楽しめるように、今まで以上に念入りの活動の準備・計画を行いたい。活動内容に関して専門職の方に助言をいただいたり、お出かけ先の下見をきちんと行ったり、できるだけの努力をしていきたい。
3	保護者の方と子どもたちの情報交流が丁寧に行えている。	連絡帳を採用し、毎日記録をしている点や、送迎時に保護者の方にお会いした際は丁寧に通所時の様子を伝えている。また、必要に応じて電話や公式LINEで連絡帳や口頭のみでは伝えきれない様子も伝えている。	保護者の方のみではなく、学校の先生や相談支援員さんとの情報交流も機会を増やし、子どもの成長を多角的に捉えることができる体制を整えたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	緊急時対応マニュアル等の保護者へ向けた周知がうまくできていない。	策定はされているが、保護者の方へは契約時の説明に留まってしまう。	ホームページに公開することで保護者の方にも見ていただけるようにしていく。変更があった際にもすぐに更新し、その旨を保護者の方へ通知するようにしていく。
2	苦情対応への体制や対応内容が十分な満足度に到達していない。	保護者の方とは公式LINEを通じて連絡を取り合っている。 LINEにて苦情申立てがあった際、返答に時間がかかってしまう場合があり、迅速さに欠けている。	LINEでの連絡を見落とすことや返信し忘れることの無いように、毎日担当者を明確に決めておき、丁寧なチェックをしていく。必要であれば、連絡をいただいた翌日には職員で話し合い、可能な限り迅速に改善策・対策をお伝えできるように努める。
3	障がいのない子どもたちとの交流の機会が少ない。	公園へお出かけしたり、近隣にある児童館へ遊びに行ったりすることで交流の機会が全く無かった訳ではないが、保護者の方へ周知がされておらず、評価を得られなかったと分析する。また回数自体も少なく、積極性に欠けていた。	公園へのお出かけ等、障がいのない子と交流できる活動内容を、事前に配布している活動スケジュールに明記することや、その回数自体を増やしていく方針を取る。